

被災者の不安な心をレスキュー アシストする



特定非営利活動法人 災害救援レスキューアシスト

団体の成り立ち 理念

2016年1月災害緊急時の要配慮者
支援団体として開設

団体の専門性や強み

大工、瓦葺技能士、電気工事士、工場板金技能士
介護士、美容師、歯科医師、保育士、整体師など
専門的分野の職業メンバーが多数いるので
被災地の悩み事にほとんど対応できる

被災者支援活動実績

熊本地震→避難所運営からブルーシート張りまで
二年間県外団体で一番長く熊本に残り活動
500件計3000名以上の活動

大阪北部地震→震源地近くの茨木市に拠点を置き
一年間大阪府すべての屋根被害の応急処置に対応
800件計4000名以上の活動

千葉県台風15号19号→鴨川市に拠点を置き一年
半屋根被害の応急処置に対応
200件計1000名以上の活動

地震・台風による屋根被害

応急処置の専門業者が存在せず被害数が多いと
1年以上工事ができずに我慢しないといけない



水害による家屋被害

多くの建築業者はカビ被害による健康被害の知識がない



水害1週間後



ほとんどの家屋



壁をめくらないと見えないので気付かない

このように業者がわからない
住人さんへの対応も経験豊かな
災害支援専門NPOだから出来ます



被災地でのNPOの活動事例一部



仮設住宅支援



避難所整体



床下対応



支援物資配布



災害廃棄物運搬



引っ越し支援



家屋への倒木伐採



炊き出し支援

被災地行政との連携

平成28年熊本地震感謝状贈呈式



熊本市長



茨木市長

災害協定



鴨川市長



新地町町長

自衛隊・消防との連携



屋根の講習後、事故がゼロに



連携を進める上で国や自治体に期待する事

- 行政→平時に災害支援NPOとの関わりを持って欲しい（できれば災害協定）
- 行政自治体との共同防災訓練希望
- 災害時使っていない施設をNPOへ貸し出し
- 集まる支援物資の共有
- 国→自衛隊の災害支援の幅を広げてほしい
- 自衛隊の技術向上の為に訓練にNPOの知識を平時に伝えるようにしてほしい。